

第4章 アフガニスタンのインダス文明遺跡

カンダハール州 Kandahar

アフガニスタンにおけるインダス遺跡は決して多くないが、ヒンドークシュ山脈南麓で遺跡が確認されており、バローチスタン高原とイラン南東部の双方に連絡をみせる遺物が出土している。このことはこの地域が東西の地域を結びつける交通路の役割を担っていたことを示している。

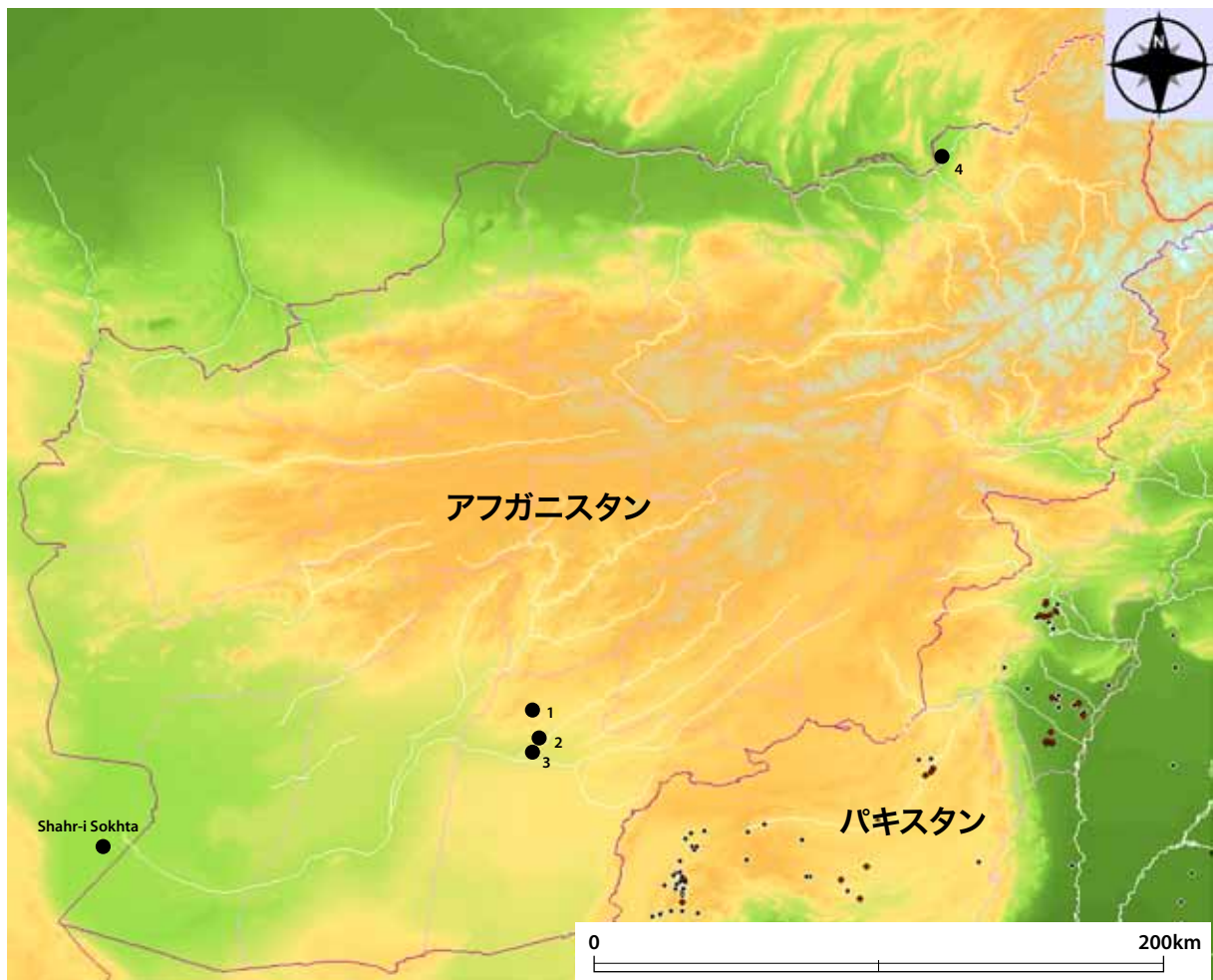
1 ムンディガク遺跡 Mundigak

ヒンドークシュ山脈南麓に所在するこの遺跡

は、西のイラン高原南東部東のバローチスタン高原を結ぶ交通路上の要衝であったと考えられる。発掘調査の結果、前4千年紀から歴史時代までの長期にわたる文化層序が確認され、I～VII期の時期区分が設定されている。

前4千年紀から前3千年紀前葉にかけての時期には、イラン高原南東部のシャフリ・ソフタ遺跡、バローチスタン高原のメヘルガル遺跡などとの交流関係を出土遺物に窺うことができる。出土土器からみれば文明期に併行する時期の文化層は確認できないが、V期になるとそれまでとは大きく異なる彩文土器が出現する。

単に先文明期に限らず、イラン方面とバローチスタン高原の交流関係を考える上できわめて重要な



アフガニスタンにおけるインダス関連遺跡の分布



ムンディガク遺跡

(撮影：R. Besenval © R.Besenval/DAFA)

遺跡である。

【発掘調査機関】

Jean-Marie Casal (Museum Guimet)

【所在地】

Kandahar

【緯度・経度】

31°55'00"N, 65°30'00"E (Possehl 1999:799)

【発掘調査年度】

1951, 1952, 1953, 1954, 1955, 1956, 1957, 1958 (Casal 1961)

【参考文献】

(1) 発掘報告書 (Excavation Report)

Casal, J.M. (1961) *Fouilles des Mundigak*. Librairie C. Klincksieck, Paris.

(2) その他の参考文献

Ciarla, R. (1981) "A Preliminary Analysis of the Manufacture

of Alabaster Vessels at Shahr-i Sokhta and Mundigak in the 3rd Millennium B.C.", in H. Härtel (ed.) *South Asian Archaeology 1979*. Dietrich Reimer Verlag, Berlin. pp.45-63.

De Sazieu, B.B. and M. Casanova (1993) "Semi-Precious Stones Working at Mundigak: Carnelian and Lapis Lazuli", in A. Gail and G.J.D. Mevissen (eds.) *South Asian Archaeology 1991*. Franz Steiner Verlag, Stuttgart. pp.17-30.

Jarrige, C. and M. Tosi (1981) "The Natural Resources of Mundigak - Some Observations on the Location of the Site in Relation to its Economical Space", in H. Härtel (ed.) *South Asian Archaeology 1979*. Dietrich Reimer Verlag, Berlin. 115-142.

Shaffer, J.M. (1978b) "The Later Prehistoric Periods", in F.R. Allchin and N. Hammond (eds.) *The Archaeology of Afghanistan from Earliest Times to the Timurid Period*. Academic Press, London. pp.149-162.

2 サイド・カラ・テペ遺跡 Said Kala Tepe

ムンディガク遺跡近郊にあるこの遺跡では、発掘調査の結果、I～VI期からなる文化編年が設定されている。このうちI～III期がムンディガク遺跡III・IV期に併行する。ムンディガク遺跡に共通する土器のほか、バローチスターン各地からの搬入土器、人物・動物土偶、幾何学文印章などが出土している。

【発掘調査機関】

W.A. Fairervis in 1951

Jim G. Shaffer in 1971 and 1972

【所在地】

Kandahar

【緯度・経度】

31°38'00"N, 65°35'00"E (Possehl 1999: 817)

【発掘調査年度】

1951, 1971, 1972 (Shaffer 1978)

【参考文献】

(1) 発掘報告書 (Excavation Report)

Shaffer, J.M. (1978a) *Prehistoric Afghanistan*. B.R. Publishing Corporation, New Delhi.

(2) その他の参考文献

Shaffer, J.M. (1978b) "The Later Prehistoric Periods", in

F.R. Allchin and N. Hammond (eds.) *The Archaeology of Afghanistan from Earliest Times to the Timurid Period*. Academic Press, London. pp.149-162.

3 デヘ・モラシ・グンダイ遺跡

Deh Morasi Ghundai

ヒンドークシュ山脈南麓の低地部に所在するこの遺跡では、試掘調査の結果、前4千年紀から前3千年紀にかけての遺跡であることが確認され、I期：前4千年紀、II期：前3000～前2000年、III期：前2000年頃、IV期：前2000年以降からなる文化編年が設定されている。ただし、ムンディガク遺跡やバローチスターン高原の遺跡に照らし合わせれば、II期は前3千年紀前葉、III・IV期は前3千年紀後半に位置づけられよう。

【発掘調査機関】

Louis Dupree (The American Museum of Natural History/The Pennsylvania State University)

【所在地】

Kandahar

【緯度・経度】

31°31'00"N, 65°30'00"E (Possehl 1999: 752)

【発掘調査年度】

1951 (Dupree 1963)

【参考文献】

(1) 発掘報告書 (Excavation Report)

Dupree, L. (1963) *Deh Morasi Ghundai: A Chalcolithic Site in South-Central Afghanistan*. Anthropological Papers of the American Museum of Natural History 50(2): 59-135.

(2) その他の参考文献

Shaffer, J.M. (1978b) "The Later Prehistoric Periods", in F.R. Allchin and N. Hammond (eds.) *The Archaeology of Afghanistan from Earliest Times to the Timurid Period*. Academic Press, London. pp.149-162.

バダフシャーン州

Badakhshan

アフガニスタン北部のバダフシャーン地方は西南アジア世界で広く珍重されたラピスラズリの原産地

である。この地域にもハラッパー文化の要素をもつ遺跡があり、インダス文明、とりわけハラッパー文化とラピスラズリとの関係を示している。

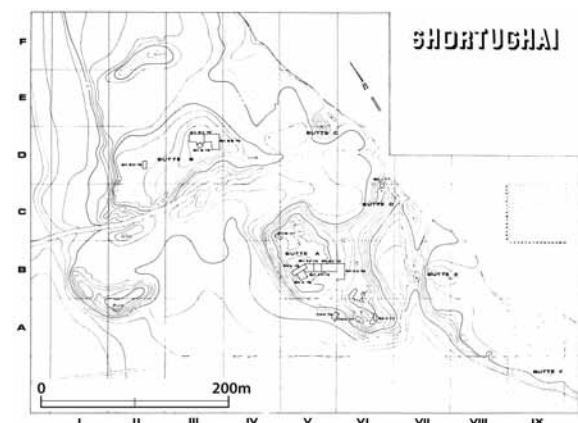
4 ショールトゥガイ遺跡 Shortughai

アフガニスタン北部のバダフシャーン地方に所在するこの遺跡では、ハラッパー式土器とインダス式印章が出土しており、ハラッパー文化がラピスラズリの開発を目的として原産地へと進出していたことを物語っている。ここで注目されるのは、出土するハラッパー式彩文土器に Quivron 編年古段階の資料が含まれていることで、文明期前期にはハラッパー文化がこの地域に進出していたことを示唆している。

その一方で中央アジア南部に由来すると考えられる遺物も出土しており、ハラッパー文化と BMAC を含む在地文化との関係が注目される。

【発掘指揮】

Henri-Paul Francfort (Centre National de la Recherche



ショールトゥガイ遺跡

(Francfort 1989 より)



ショールトゥガイ遺跡

(撮影：R. Besenval © R. Besenval/DAFA)

Scientifique)

【所在地】

Badakhshan

【緯度・経度】

37°18'00"N; 69°30'00"E (Possehl 1999: 822).

【発掘調査年度】

1976, 1977, 1978, 1979

【参考文献】

(1) 発掘報告書 (Excavation Report)

Francfort, H.-P. (1989) *Fouilles de Shortughai. Recherches sur l'Asie Centrale protohistorique*. vols.1-2. Diffusion de Boccard, Paris.

(2) その他の参考文献

Francfort, H.-P. (1984a) "The Harappan settlement of Shortughai", in B.B. Lal and S.P. Gupta (eds.) *Frontiers of the Indus Civilization: Sir Mortimer Wheeler Commemoration Volume*. Books and Books, New Delhi. pp. 301-310.

Francfort, H.-P. (1984b) "The early periods of Shortughai (Harappan) and western Bactria culture of Dashly", in B. Allchin (ed.) *South Asian Archaeology 1981*. Cambridge University Press, Cambridge. pp.170-175.

Biscione, R. (1973) "Dynamics of an early South Asian urbanization: the first period of Shahr-i Sokhta and its connections with Southern Turkmenia", in N. Hammond (ed.) *South Asian Archaeology*. Noyse Press, Park Ridge. pp. 105-118.